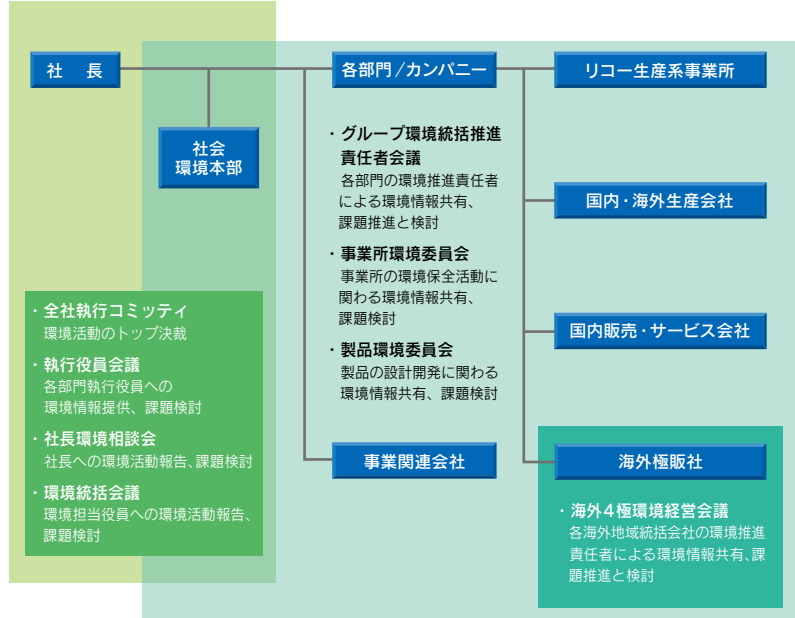


環境経営の実現に向けて、 環境保全活動と経営の融合を進めています。

環境マネジメントシステムは、グローバルな環境経営を推進するリコーグループにとって、重要なツールのひとつです。経営トップが策定した環境行動計画が、各事業部門の目標に落とし込まれ、活動の結果がトップにフィードバックされる仕組みを構築し、グループ全体および事業所・部門ごとのPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルを回しています。また、全社の戦略的目標管理制度に「環境」の項目を取り入れ、部門別の業績評価を行っています。今後は各事業のプロセスにEMSを組み込んで環境経営を推進していきます。

リコーグループ環境経営システム組織図

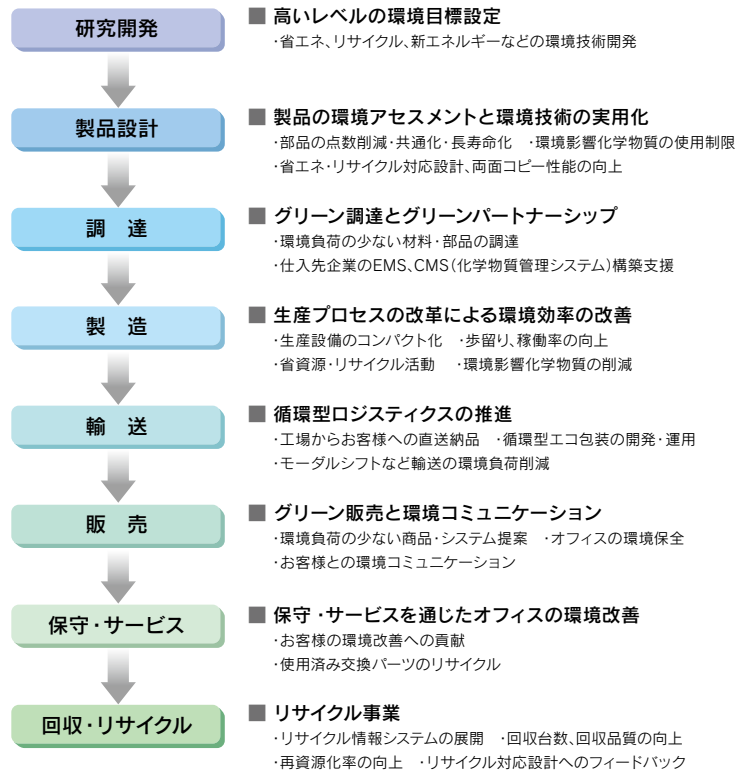


全員参加の活動

リコーグループは「全員参加」を基本に、環境経営のレベルアップに取り組んでいます。「全員参加」とは、研究開発から製品設計、調達、製造、輸送、販売、保守・サービス、回収・リサイクルの各部門の一人ひとりが、自分の業務に環境の視点を取り入れ活動することを意味します。これらの活動は、利益創出を追求する「QCD活動*」と、ほぼイコールになっています。また、活動のレベルアップを図るために、グループ内ベンチマークも随時開催し、ノウハウを水平展開しています。

* 品質 (Quality)、コスト (Cost)、納期 (Delivery) の管理改善活動。

全員参加の環境経営活動



ISO14001の認証取得

環境経営を実現するためには、事業と環境保全を別々に行うのではなく、事業の中に環境の視点を融合させる必要があります。リコーグループは、環境マネジメント体制の強化を目的に、従来は事業所や事業部門単位でISO14001の認証を取得してきました。1995年にリコー御殿場事業所がISO/DIS14001の認証を取得したのをはじめ、2000年3月には世界の主要生産拠点すべてが認証を取得。2001年には国内販売グループで一括認証を取得し、海外の販売会社でも積極的に認証を取得するなど、ISO14001の認証取得を通じた「全員参加による環境経営の風土づくり」を進めてきました。この全員参加の風土をベースに、環境視点を取り入れたさまざまな事業活動を展開し、現在は、事業と環境のさらなる融合を図るため、マネジメントシステムの統合を進めています。システム統合の範囲は、今後も拡大していく予定です。

※ ISO14001認証取得状況については、ホームページをご覧ください。
<http://www.ricoh.co.jp/ecology/system/iso.html>

戦略的目標管理制度

リコーグループでは、環境活動の評価基準を明確にし、部門の業績評価に結びつける仕組みとして、1999年から「戦略的目標管理制度」を導入しています。これは、1990年代にアメリカで開発された「バランス・スコアカード」の4つの視点に「環境保全」の視点を加えた戦略的な目標管理の手法です。グローバルな環境経営を実現するために、リコーグループ全体に「戦略的目標管理制度」の展開を進めています。

